問一、次の――について、(1)助動詞の場合はａ文法的意味・ｂ基本形・ｃ活用形を、(2)用言の場合はａ品詞・ｂ活用の種類・ｃ活用形を番号の上や下に記しなさい。

①予、ものの心を知れり(1)　しより、四十あまりの春秋を送れる(2)間に、

②世の不思議を見ること(3)、ややたびたびになりぬ(4)。

③いんじ安元三年四月二十八日かとよ。④風激しく吹きて(5)、静かなら(6)ざりし夜、戌の時ばかり、都の東南より火出で来て(7)、西北に至る。⑤果てには朱雀門・大極殿・大学寮・民部省などまで移りて、一夜のうちに塵灰となり(8)(9)に(10)き(11)。

⑥火もとは、樋口富小路とかや。⑦舞人を宿せる(12)仮屋より出で来たりける(13)となん。⑧吹き迷ふ風に、とかく移りゆくほどに、扇を広げたるが(14)ごとく末広になりぬ(15)。⑨遠き家(16)は煙にむせび(17)、近きあたりはひたすら炎を地に吹きつけたり。⑩空には灰を吹きたてたれば、火の光に映じて(18)、あまねく紅なる中に(19)、⑪風に堪へず(20)、吹き切られたる炎、飛ぶがごとくして、一、二町を越えつつ移りゆく。⑫その中の人、うつし心あらんや(21)。⑬あるいは煙にむせびて倒れ臥し、あるいは炎にまぐれて(22)たちまちに死ぬ(23)。⑭あるいは身一つ、からうじて逃るる(24)も、資財を取り出づる(25)に及ばず。⑮七珍万宝さながら灰燼となりにき(26)。⑯その費え、いくそばくぞ。⑰そのたび、公卿の

問一正答率 50 %未満で「助動詞言えるかな？」覚えてもらいます。

家十六焼けたり。⑱ましてそのほか、数へ知るに及ばず。⑲すべて都のうち、三分が一に及べりとぞ。⑳男女死ぬる者数十人、馬・牛のたぐひ辺際を知らず。

・人の営み、みなおろかなる(27)中に、さしもあやふき(28)京中の家を作るとて、宝を費やし、心を悩ますことは、すぐれてあぢきなくぞ(29)侍る(30)。

問二、次の古典文法用語、事項に関する問に答えなさい。

(31)形容動詞の活用の種類二つ（　　）
(32)「をかし」の品詞は？（　　）
(33)「をかし」の活用の種類は？（　　）
(34)唯一のア行の動詞は？（　　）
(35)係り結びの係助詞は？（　　）
(36)「おもしろし」の活用語尾は？（　　）
(37)「大きなり」の語幹は？（　　）
(38)「白く」が「白う」に変化する用法名は？（　　）
(39)下一段活用の動詞全て（　　）
(40)活用形を全て（　　）
(41)変格活用９つ（　　）
(42)「ちはやぶる」は「神」にかかる何？（　　）
(43)漢文で一字を二度訓読する文字は？（　　）
(44)漢文で書き下し文にする時ひらがなに直すのは？（　　）
(45)漢文で訓読する時読まない助字はなんていう？（　　）
(46)用言って何？（　　）
(47)体言って何？（　　）
(48)係り結びの結びの活用形は？（　　）
(49)「経る」の基本形は？（　　）
(50)「これなむ都鳥。」の係り結びの結びはどうなっている？（　　）

問二，正答率 50 ％未満で、「必ず覚えて！古典用語」口頭試験を合格してもらいます。